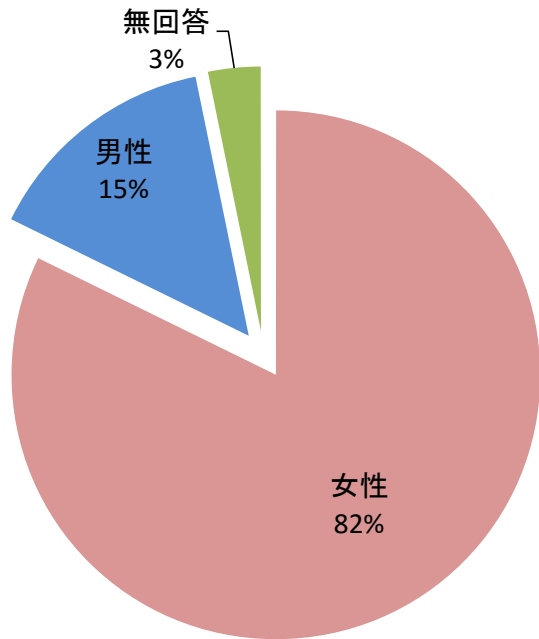


10月2日 シンポジウム
「要配慮者の被災と災害食」
アンケート集計結果

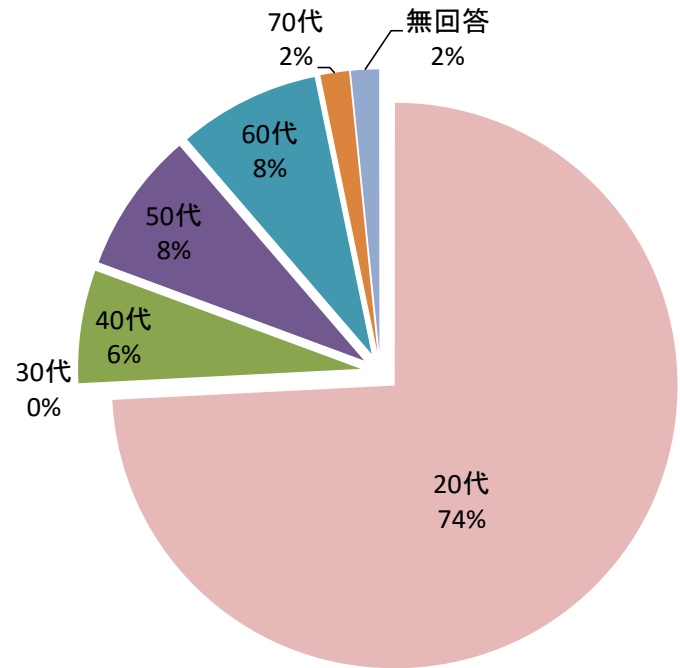
配付数87 うち回答数62 回収率71.3%

回答者の属性

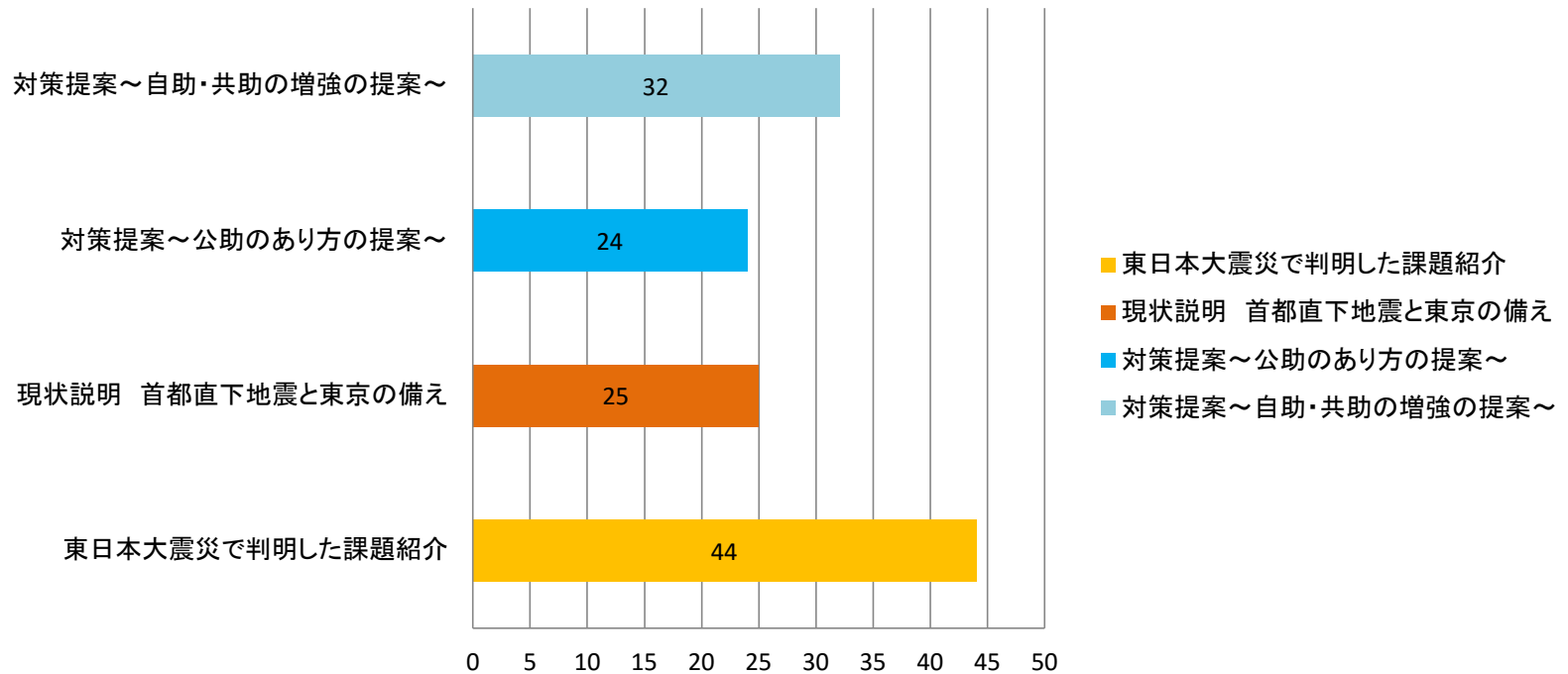
性別



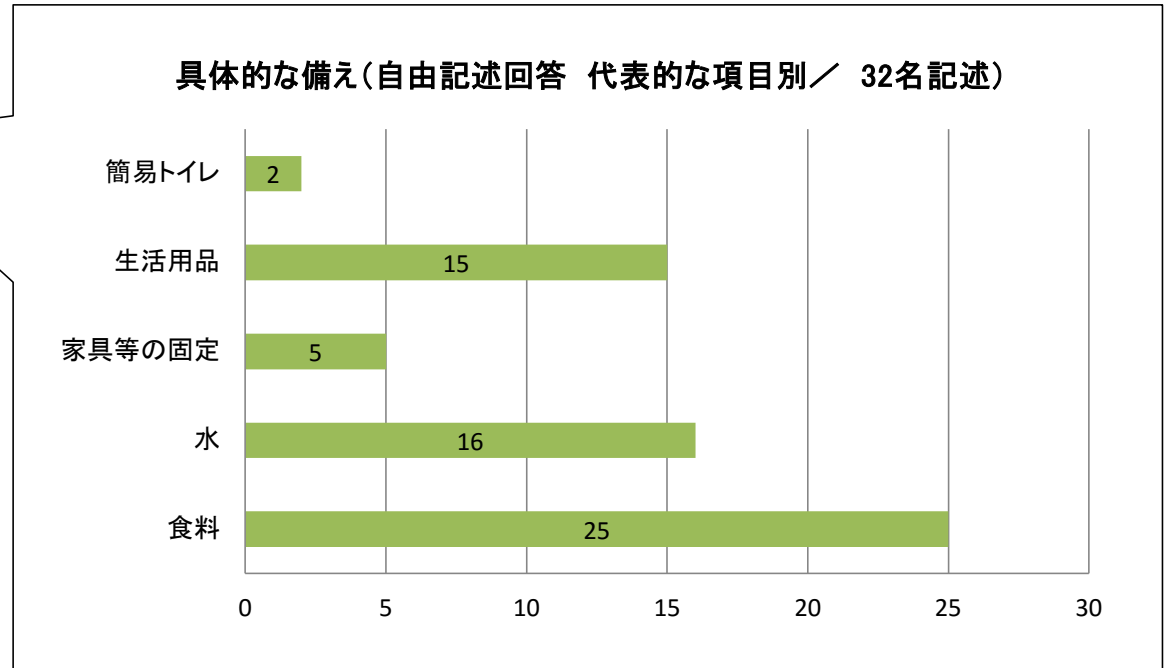
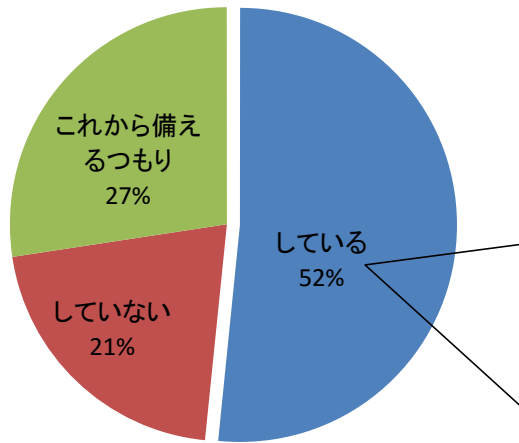
年齢層



③ あなたにとって、本日のシンポジウムの中で どの情報が役に立ちましたか？（複数回答可）



② あなたは首都直下地震をはじめ、災害に対する備えをしていますか？



具体的な内容(自由記述回答)の原文は次のページに記載

② あなたは首都直下地震をはじめ、災害に対する備えをしていますか？

→「している」と回答したうち、具体的な備えの記述回答原文(記述回答者32名)

缶詰のパン、予備メガネ、水、常備薬	テレビの固定、食料
飲料水、カセットコンロ、レトルト食品、ろうそく、テント用ランプの常備	水、食品、ヘルメット、トイレ
水、食料、ライトなど1日分の防災リュック	水、インスタント・レトルト食品 3日分くらい
水、クッキー、毛布	ラジオ、懐中電灯、災害食、下着
水、食料など避難バック	ひとつおり
サトウのごはん、水、缶詰	レトルト食品
食料	食料、医療、生理用品
水、家具の転倒防止	簡易トイレ、長期保存野菜スープ、水
災害用セット	水、アルファ米、ラジオ、防災グッズセット
食料の買い置き	ある程度3～4日分
水、米、缶詰、乾物など食料	耐震補強、家具固定、食料、救助補助機材
水、食品、家具の留め具	水、食料の備蓄
食料家族3日分、生活用品	食料ローリングストック
非常食	懐中電灯、アルファ米、ミネラルウォーター、カンパン、汗拭きシート
テレビの固定、食料	水
水、食品、ヘルメット、トイレ	家具固定

③ 災害時における要配慮者の食の課題について、社会へ広めていくためにはどうしたらよいと思いますか？

備蓄ではなく買い置き、という概念について行政が動く事はもちろん（特に国）マスコミや、病院電車など公共の場において広告する必要があるのではないかなと思う。また、そもそも食の賞味期限に関して、そこまで気にするのだろうか。

全国ネットワークのテレビで放送する事が一番こういう機会に接しない消費者には伝わると思います。またLINEで配信したりするのも手だと思いました→リスクとして信憑性や御認識がありますが。

- ・テレビ番組での特集（シリアスなものだと嫌がって観ない人も多いと思うので、ざっくりと、かつ前向きな気持ちになれるような内容）
- ・交通機関（電車内、バス内、駅ホーム内）でのポスター
- ・小中学校での食育児の1テーマとして盛り込む

一般ではまだまだ非常食的考えしかないように思う。メディアで商品や取組をもっと取り上げ、災害食という考え方をもっと普及させることができれば災害時だけでなく日常生活ももっとよくなり要配慮者への理解も深まると思った。

地域情報誌、ニュースなど、多くの人が目にするものに情報を掲載していくべきだと思った。（どのような食の課題があるのか、など）

各市町村に現状と必要性を分ってもらうこと、がまず重要だと思った

メディアの力を利用すること、シンポジウムの中で長岡市での例があるようにグランプリ等の開催によって、国民の関心を引き寄せることが効果があると思います。地域の中でそのような運動や活動を行うことによっても、住民の人々が要配慮者を認識できるので、食の課題についても考えてもらえると考えます。

食物アレルギー対応食は、一般の方々にも食べれるものだから、食物アレルギー対応食を備蓄した方がいいという考えをもっと社会の人が知らなければいけないと思う。

“要配慮者”という存在が身近であること、支援をしなければならないという点を実感をもって広める。見た目ではわからないことなので、「どうして配慮が必要なのか」「ひいきではないのか」という点を共有したうえで対策を立てることが大切だと思った。

はんぶん米が普及した際と同じように、現場の深刻な状況を人々が知り、現状を変えていかねばという意識をもたせることが大事だと思う。透析患者が仲間の死を通して普及を進めたように、自身の経験をとおしてそれが必要だと考えている人たちの声を広く届けたり、意見を言いやすい環境をつくることも大事だと思う

災害食というと普段は関係ないと思ってしまうので、米粉のクッキーのように日常に取り入れたら身近に感じると思う

アレルギーをもつ子をもつ親などはきっと興味のある事だと思います。病院などにパノフレットを置くなど？

一般の人も食べられておいしいものの商品化を進め、スーパーなどで販売する。

若い方に現状を見てもらいたいというお話もありましたが、ぜひ学生も対象にお話されたり、イベントをされたりするとよいと思います

妊婦さんのマークが導入されてしばらく経ちますが認知度がとても向上したように思います。同様に食に関する配慮が必要な方だと分かるマークをつくり、広めていく。食品側だけでなく人の方にも分かる目印があるといいと思いました。

テレビやSNSの利用が重要になってくると思う。まだまだ「要配慮者」という言葉にはなじみがないと思うため、その告知がまず必要であり、そのためには手軽で拡散力の大きい媒体が活躍すると感じる。

企業や学校など多くの一般の人が集まる場での講習を定期的に行うことや、メディアを通じての周知がやはり多くの人に伝える手段としてはまず、考えられることだと思います。

本日のような講演会を、もっと多くの国民に向けてやって、知識を増やすことが必要かなと思いました。

災害食について、もっとTV等メディアでとりあげていくことや、各地域で今以上に啓発していけたらいいのではないかと考えます。

テレビで災害のドキュメント番組などを放映する。保健所等で講義などをし、行くと災害食を貰えるなどの特典をつける

このような問題を共有するために、広い層に訴えかけられるTVなどのメディアで積極的に取り上げてもらうべきだと思う。今日のお話は一般の方にも分かりやすい内容だったと思います

要配慮者用の食事を製造するのは企業なので、企業からの行政へのアピールが思います

様々な世代の人々に現状と備えについて知らせるために、学校で映像を用いた講義を行い、子供やその親に学んでもらう。人工透析やアレルギーに関しては患者への教育を病院で行う

成人でも知らない人がたくさんいるため、まずは学校などで子供のころから教育していく必要があると思う。成人に対しては市町村で防災に関する事業を展開したり地元企業で社員やその地域の人に対して普及活動をすべきだと思う

災害時に備えてのシンポジウムを年に何度か開催する。家庭に一枚、この内容に関するリーフレットを配布する。

長岡で取り組まれている「米粉クッキー」を日常食へという取組みが大変すばらしいと感じました

長岡市の取組みのように災害時だけでなく、日常的に要配慮者も健常者も食べることが出来る災害食を普及させることで、災害が発生した際にもスムーズに要配慮者の食が調達できるのではないかとおもいます

実際に被災した要配慮者及び家族の話をまとめて公表する。対策を策定する。要配慮者自身が対策構築に関わる必要があるかと思う

本日のようなセミナーを今後も開催し広めていけると良いと思います

地道な活動にはなりますが地域ごとで説明を行っていく。また、新聞やテレビなどで発信することも必要かと思うが真剣に考えている人は見るが、考えていない人は見ないかもしれません

自助、共助、公助の中で災害に備えるにはまず自助がしっかりしていなければ、個々の意識が高くなければ、共助公助が生きてこないと思いました。非常食から災害食という考え方を改めて認識勉強させて頂きました。このようなシンポジウムを各地で広めて発信できれば良いと思います。

災害時の実情や課題について引き継ぎをしっかりとる。文章や写真、動画として要配慮者専用の引き継ぎ書を作成する、防災週間で説明する、子供に試品を持ち帰ってもらい親に話させる

食の勉強をしている立場の私でも知らなかったことが多々あったので一般の人はもっと知らない人が多いと思う。新聞やテレビへの発信だけでなく、SNSを利用するのも今の時代なら一つの手であると思う

もっと行政や国を含めてPR活動が必要

もっと知ってもらうことが大事だと思います

テレビ、SNSなど若い人にも身近なツールを積極的に利用すると広まりやすいと思いました

イベントの開催 ex)都内の学校や保健所などで試食会を行う、クッキング体験を募る（アレルギーの子どもも参加できればなおよし）

まずそういう人々が多く入りことを社会に認知してもらうことが必要だと思います。そのためお話にもありましたようにパッケージ等に表示をする、できる制度を確立し視覚化することが重要だと考えました。アレルギーに関しては、特別にアレルギーをもつ人用の災害食をつくるのではなく、企業が通常食と同じようにアレルギーのないものを売り、それらをみんなが備蓄することでいざというときに共助できると思いました

防災週間などで多量の災害時用食品が出回る時期にスーパー等でPRしていく。特にアレルギー対応の食品は身近で広めやすいのではないかと思います。対応食であっても一般の人が美味しく食べられることはアピールポイントになるのではないかと思います

避難訓練の時に配給のところまで練習して、アレルギーの人はどう食品を受け取ればいいのかを把握しておく

表示面での対応

一般の方にも知っていただくためにどんどん発信していく必要があると思います

多くの方が目にするメディアを利用するのが効果的だと思う。テレビのCMなどはインパクトが大きい。

- ・テレビなどメディアで日常的に放送し一般市民の人々に日常生活で要配慮者の存在を気付かせる。
- ・総理や大臣など影響力のある人に発言してもらう
- ・食事制限が必要な人になったつむりの体験ワークショップを行い要配慮者が支援物資や備蓄食品でいかに食べられるものがないか実感してもらう

より日常食と同じ食事の提供を

シンポジウムをきいて表示の大切さを感じました。対象者に対して適切な食が提供されることが大事だと思いました

講演会を重ねる事でしょうか、宣伝（広報）が必要でしょうか、要配慮者という言葉も知らない人が多いので

本日のようにシンポなり講演を多く聞いてほしいと思います。特にアレルギーの問題は大変勉強になりました

「要配慮者」自身とその家族の団結

各自治体や団体などで避難訓練などをした折に、この課題についての講演会や勉強会を行う、特に送る側・配る側・受け取る側の3者の立場に立って考えられたらいいと思う

防災担当者に情報発信し理解を得る